

世人多以樂毅不時拔苦即墨

論之

夫求古賢之意宜以大者遠者先之必迂迴而難通然後已焉可也今樂氏之趣或者其

孝女曹娥碑

孝女曹娥者上

曹盱之女也

其先興周

禕木

曹

漢安

荒

離

遠

來

適居

盱能撫節安歌婆娑樂

伴以漢安

二年五月時

卽伍

右逆濤而

其

水

所淹

行其尾

二

年

時

城

年

十四

號慕思

盱哀吟

澤

畔

旬

有

士曰遂

自投

時城年十四號慕思盱哀吟澤畔旬有士曰遂自投

「落ち穂拾い記」③

『停雲館帖』(下)

故宮博物院本



停雲館帖本



故宮博物院本



停雲館帖本



中國法帖全集

(図版②)



(図版③)

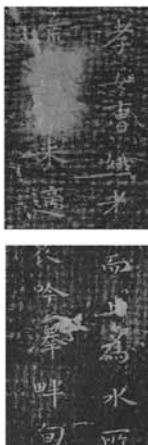
停雲館帖本



(図版④)



五島美術館本



停雲館帖本



五島美術館本



「両面装」の停雲館帖は、これまでに2件を目にした。1は、上田桑鳩旧藏本であり、現在春敬記念文庫に所蔵されている。他は、西安の個人の収蔵家の蔵本である。ともに両面装であり、擦拓の精本である。前回示した家蔵本と比べて、家蔵本は拓調がやや淡く、装幀も優れている。碑帖研究の先人が指摘していることであるが、この文徵明が編輯・監修した停雲館帖の巻一の小楷集は、非常に優れている。魏晋唐の小楷の名品とされる「黃庭經」「染縠論」各二種、「東方朔画贊碑」「孝女曹娥碑」、鍾繇の「墓田内舍帖」「宣示表」、王献之の「洛神賦」、虞世南の「破邪論序」「陰符經」、顏真卿の小字「麻姑仙坛記」等十数種が收められている。それ故に、この巻に収録されている数件の小楷をして装幀し、停雲館帖の題名などを削除し、名家の題簽、題跋、鑑賞印などを付して「宋拓晋唐小楷帖」として伝来されている名帖がある。中国歴代の法帖の名品を収録した全十八冊の「中国法帖全集」には、单帖冊として故宮博物院所蔵の「宋拓晋唐小楷帖十一種」が収録されている(図版②)。この中の巻頭の「黃庭經」以外の「染縠論」を始めとして十種の小楷は、すべて「停雲館帖」の巻一そのものである。紙面の都合で、大きな比較図版は示せないが、「染縠論」の数文字の比較図版を確認していただければ、文字の筆画以外の石面の細かな擦りキズまで同じであり、同石拓と見る事が出来る(図版③)。その他に五島美術館所蔵の伝「宋拓孝女曹娥碑」は、名家旧蔵本であるが、これも「停雲館帖」の巻一から「孝女曹娥碑」部分を取り出した法帖である(図版④)。戦前に、書道博物館を開設した中村不折や、民国時代の金石家・張伯英などが、同系の指摘を記している事に啓発され、彼らの視点とともに、伝来小楷帖の名品とされ法帖を比較研究すると、上述のような事実を見いだすことが出来る。

伊藤滋(書齋名・木鶏室)

書道芸術院

令和の群像 (2023)



木 村 笙 園



令和3年秋季展推薦作家展出品「海の鼓動」

木村笙園書

現代詩文を作品に心の中を写して言葉を追い求める。そしてその言葉「海の鼓動」を最高の形に表し、この世に作品にして送

り出したいと願ってきた。

小学5年の時、近くの駐在所の警察官が習字を教えてくれた事があった。それが書との出会いとなる。

高校時代、陸上競技の走り高跳びに明け暮れていた。バーナーに向かい心沈め

て集中し助走、そして一気に飛ぶ。

この日常が何故か私の原点に巡り逢えた気がしている。社会人となり、墨の匂いとしなやかな感触の筆が非常に恋しく、書を続けていく気持ちが強くなつていった。その

恩師坂本素雪先生には、書を通しての心に響く言葉や、生きることへの力強いメッセージをたくさんご教授いただいている。白の中の黒から、黒の中の白を。文字の中の白を、気付かしてくれた。

元書道芸術院会長の加藤翠柳先生は同郷ということが私の心の自慢である。書風に心醉するだけでなく、永遠の目標としたい。

令和3年秋季展において「推薦作家展」出品の機会に恵まれて、大きい紙に挑戦。その作品「海の鼓動」は自然界の中で絶えることのない波の音に重なる海の鼓動、もう一つはだれしもが想うと同時に引き続い

ている母からの鼓動。その言葉に心惹かれ、大自然の力強さをも作品にと紙に向かい全体をリズムに乗せてみた。緩急の呼吸、線の強弱、大字と小字の融合、反省課題は尽きないが、しかし、この大作制作にあたり、多くの学びを得た。感謝の念でいっぱいである。

諸先生方、書友の皆様のお陰で今も好きな書道を続けている。これまでの教えを大切に、素直に、謙虚に、感謝を忘れず、書の道を歩んで行きたいと思う。

歎びが忘れられず、書道芸術院や宮城野書人会の先生方にご指導いただき、昨今である。書を通じて共鳴した言葉を紙に書き続けて、42年の月日がたつ。

書のひろば

理事長 下谷洋子

第76回書道芸術院展 審査会員・同候補作品搬入

同 (篆刻刻字) 伊藤碧水
白雪紅梅賞
(漢字) 鍛治琴香・栗原華泉・戸部
藤風・本田賀艸・三浦小樹・(現詩)
安藤美悠・遠藤光葉・長南一恵・吉
田溪花・(前衛) 藤田香園

遠瑞・佐藤好美・新行内芳蘭・種
谷森城・東福青篁・長峯万扇・西川
翠嵐・東原春城・平野笛舟・藤井龍
仙・藤原小翠・三浦鄭衡・横井正江、
丸みどり・藤村昌子・(現詩) 市川都
峰・金木和子・桐岡銘紀・小竹明峰・
佐藤光耀・椎木山風・白地清柳・末
岡紅樹・田中扇溪・千葉四帆・長島
巣雨・(篆刻刻字) 石川三峰・(前衛)
阿部邑里・門脇信子・木原尚子・高
原梨秀・知野洛水・島中成山・早坂
萌香・藤原紅雲・三森慧香

昨年12月一般公募・無鑑査作品は未
表装で鑑別審査を終了しましたが、今
年に入つて1月18日に審査会員・同候
補の書類搬入が行われ、別掲の通り、
搬入されました。役員作品も一般公募・
無鑑査と同様に若干の減少でしたがコ
ロナ禍も4年目となる昨今、いくらか
皆さん乗り越えつたのでしようか。

1月27日に東京都美術館に作品が搬
入され、28・29日特別賞選考委員(財団
理事監事)による審査が行われました。

審査会員候補選考(大賞・準大賞)

賞(白雪紅梅賞・俊英賞)

審査会員選考(春華賞)併せて

秋季展出品作家(推薦作家含む)、

77回展大作出品者の選考も行い

ました。入賞者は次の通りです。

会期 2月5日(日)~11日(土)

6日(月)都美休館日

会場 東京都美術館

表彰式 2月8日(水)

2月11日(土)

10~30、14:00

同大賞前衛 吉田恵弦

(漢字) 上岡まゆみ・(かな) 德永美

恵子・富澤白雲、(現詩) 齋藤杏風、

(漢字) 朝倉希代子・板橋雅邦・清

同大賞前衛 大沼樵峰

(漢字) 同大賞前衛 吉田恵弦

(漢字) 同大賞前衛 吉田

現代詩文書基礎基本講座 (33)

小竹石雲

【臨書から現代詩文書への展開】

① 黄州寒食詩卷跋風のひらがなの表現方法



- ① 黄州寒食詩卷跋風のひらがなの表現方法
・効果的に織り交ぜられた長い線の方向性を考えながら書いた。
・墨色も淡墨にしたことで力強さを前面に出すのではなく控えめに表現することで、黄庭堅の芸術性をさらに活かせるように思った。



② 黄州寒食詩卷跋風の現代詩文書

- ② 黄州寒食詩卷跋風の現代詩文書
・少しやんちゃで気儘なユーモアのある句に遭遇し、楽しんで筆が執れた。
・漢字・ひらがな・カタカナがそれぞれ勝手に動きながらも一体になることができた。現代詩文書って楽しいよね。
・そうしてみると、ことばあっての表現だとと思う。ことばは大切！

「恵比寿ビール溢れサビシイデハナ
イカ」池田澄子句

前衛書基礎基本講座 (9)

千葉蒼玄

【“○△□”を書く】

書の線について述べてきたが、では形（画）ではどうだろう。禅の書でこの世のすべてを表すものとして“○△□”がある。

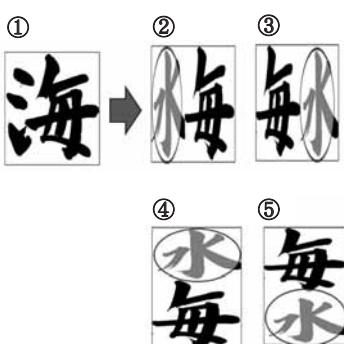


仙窟
(出光美術館)
扶桑最初禪窟
(日本最古の禅寺)
聖福寺の仙窟



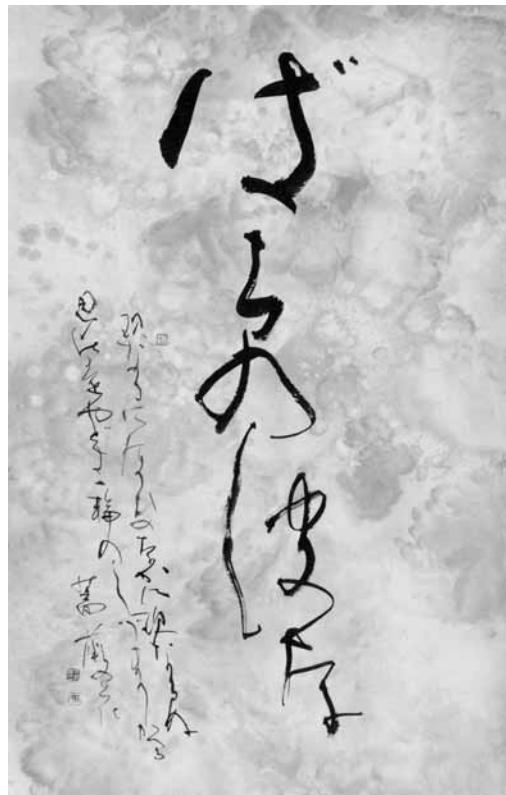
ここまででは一般的に理解できると思うが、これを字に応用してみよう。

① “海”は水と毎であるから②、③、④のようにも書ける。これが字形を工夫することである。皆さんはこのように偏と旁を入れ替えて書いたことがあるだろうか。古典の中に、これを実践している人がもう存在した。弘法大師空海である。このほかにも偏と旁を入れ替えた例は多数あるが、もつと古い時代(文字が確定する前)には色々な形が存在したのだろう。



「現ならぬ思ひ」大手拓次

下谷洋子



129×82cm



干支文字

〈セイコーハウス銀座ホール展〉

現代の書 新春展

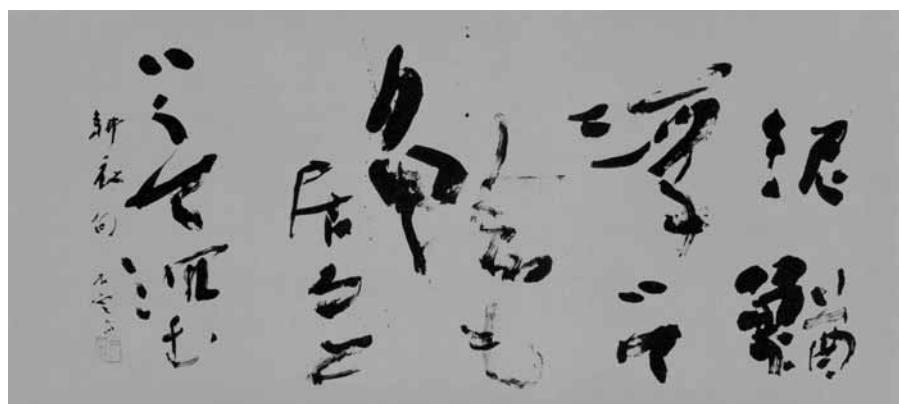
今いきづく墨の華

セイコーハウス銀座ホール展 2023年1月4日(水)～9日(月)
セントラル会場 100人展 2023年1月4日(水)～9日(月)
主催：毎日新聞社・(一財)毎日書道会

千支文字



小竹石雲



永田耕衣の句

70×155cm

〈セントラル会場100人展〉

「恩」

大野祥雲



干支文字



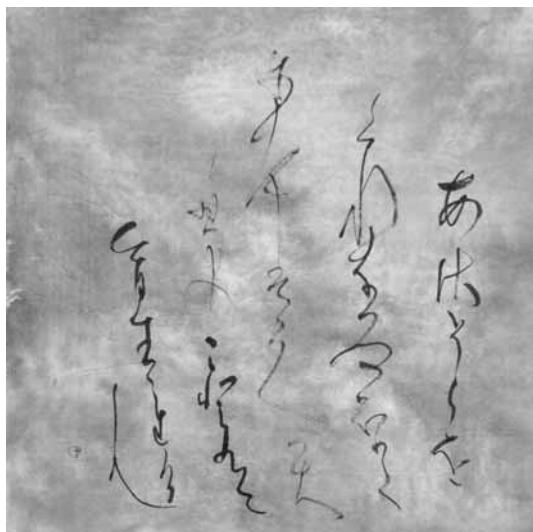
121×94cm

干支文字



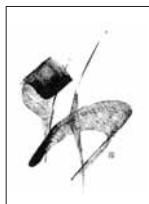
「朝空を」清水比庵

石井明子



78×77cm

干支文字



太田蓮紅



「時の記憶」

60×97cm

特集：現代の書 新春展

干支文字



坂本素雪



澤田いさをの句

65×137cm

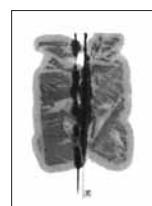
千葉蒼玄



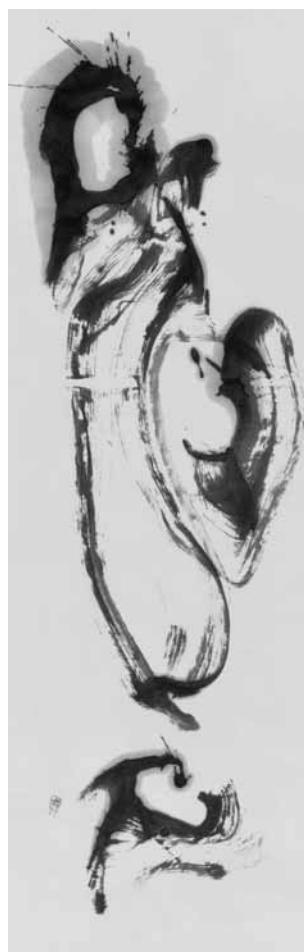
「祈（ウクライナ・クライシス）」

52×183cm

干支文字



「翼による」



山口仙草

干支文字



181×59cm

(1) 居延漢簡

二月丙子肩水房以私

二月丙子肩水房以私

(編集部)

〈解説〉出土数が膨大であった居延漢簡は、中国の木簡研究の中心資料となっている。書写された年号が明記されている紀年簡に限ってみても、前漢の征和3年（前90）から後漢の永康3年（後169）までの250年以上の時代的な幅があり、書体も古隸から章草におよんでいる。図版の2簡は草書で書かれている。(1)居延漢簡は、宣帝（前漢第10代皇帝）の最後の年、黄龍元年（前49）二月丙子の文書と推定される。(2)居延漢簡は元帝（前漢第11代皇帝）の時代のものと思われる。2簡それぞれ隸書の用筆を残しながらも、草書木簡の多様な美しさを示している。

(2) 居延漢簡

印行事敢言之郭據

印行事敢言之郭據

取司馬監關調書
可爲丞相史約者

丸二十郷可名玉柏大約者

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の部毎日展審査員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可)
(B. 小品の部一半切以上半切以内、全紙以内も可(A・B縦横自由)) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

→ご注意// 今月の特別研究部は当ページ上記掲載の(1)・(2)「居延漢簡」の中から臨書箇所を選び、出品して下さい。

かな研究部臨書課題
特別研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して可。半紙は半紙サイズに切って使用のこと。

左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全體も可)
大作の部毎日展覧会員・会員サイズ以内、2×6尺全紙も可
小品の部毎日展覧会員・会員サイズ以内、2×6尺全紙も可
ハイズレも左記の掲載以外も可。V

※掲載図版・73%に縮小

〈よみ〉

あづ川左美於天者田佐里ぬあすさへふらばわか
ふりぬあすさへふらばわか
なつみてむ
仁和帝のみここにおはしまし
けけるときに、ひとにわかな
たまひける哥
きみがためはるのゝにいでゝわか
那那那那那那那那
なつむわがころもでにゆきは
ふりつゝ

〈解説〉書とともに元永本古今集の美しさを構成

する要素は料紙にある。紫・赤・黄・茶・白など色とりどりの和製の唐紙が使用され、濃から淡・淡から濃へと色を重ねるように用いられている。表面には唐草・菱文様・亀甲などの型文様が雲母摺り、空摺りされ、裏面も金銀の切箔・野毛・砂子などを撒いて華麗に装飾されている。その書は料紙の色の濃淡に応じて筆線に変化を与え、下巻にはさまざまに散らし書きの妙を見せていく。この筆者は源俊頼と伝えられてきたが、今日の研究では、当時屈指の能書であった藤原定実(藤原行成の曾孫)と推定される。

※落款を必ず入れる。署名、もししくは〇〇臨(押印のみ可)

(編集部)

(東京国立博物館蔵)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょう。

名 越 蒼 竹

雲霞白晝孤鶴 (白居易詩)
(雲霞白昼の孤鶴)

才能ある人物がその能力を隠して時を待つ。

八分体の隸書、曹全碑に近い書風で書きました。ただし縦長の字形になったようです。後漢の八分書には名品が多く、礼器碑、乙瑛碑、史晨前・後碑等々、整齊謹嚴な書風で有名です。

曹全碑は建碑後、地中に埋もれ、近代になって掘り出されたことから、風雨に晒された期間が短く、肉筆に近い雰囲気が感じられます。

しかし隸書作品で最も大切な「隸意」を身につけるには、肉筆幅に大きく書いて迫力を出したい場合は適さないかもしれません。曹全碑が最適と思われます。参考作は兼毫筆を用いました。



雲霞白晝孤鶴

よみ (雲霞白屋の孤鶴)

書体=自由

習い方解説(五)

川島舟錦

玉雪開花
(玉雪花を開く)
(昭明太子)

「玉雪開花—美しい雪がふりかかり枝が潤いを得、春に花を咲かす」

辛い時に努力すればいずれ花は咲くということ。あふれんばかりのエネルギーのある時に、コツコツと積み重ねることの大切さを思います。

「玉」1画田、2画田、3画田の

方向や長さをおさえましょう。

「雪」3画田の長さ、「三」の横画部分を等間隔にすること

で形を整えましょう。

「開」門がまえの左右の横画は一

直線上にそろえましょう。
「花」7画目の縦画が中心になります。

小学生で習ったであろう漢字4文字を、1枚の半紙にまとめることが容易でないこと、今回も感じることとなりました。

玉雪開花 よみ(玉雪花を開く)

舟錦書

書体=楷書



習い方解説 (二)

石井明子

さえざえて梅に氣のすむ月夜かな
(杉山杉風)

「つめたく冷えびえとした梅の香
に、大氣も澄んで美しい月夜であ
るよ」との意。

さーえ、一七

月夜かな
わゆら



創作

*料紙は半紙版(330×245mm)を使
用しましょう。

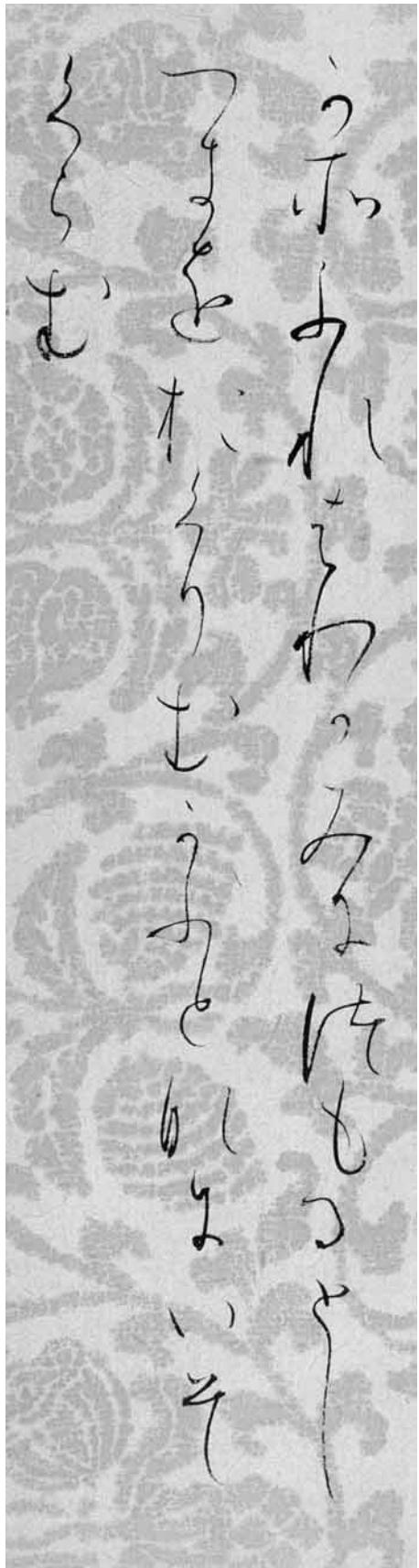
17文字で全てを表現し尽すこの短詩の藝術性には感わされ続けています。それを書作品にするには字数の問題の他に、高度に文学的な余韻ということがあります。書で余韻のある作品にするには、技術を越えた深い思いが大事だと思われます。精神の充実は個々の努力に任せることはありませんが、技術的には31文字のときより大きめの筆を使い、量感のある作品を心がけましょう。俳句は作者の使用文字の置き換えを好みませんが、作意を損なわない範囲で、また創りすぎにならない心がけで置き換えました。さあー、自分の個性で書きましょう。

よみ方 さえざえて(ゝゝ)てうめ(免)に(尔)氣のす(春)む(无)月夜かな 杉風を

かな規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または單体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 か(可)ぞ(所)ふれば(者)わが(可)みに(尔)つ(徒)もるとこ／＼つき(支)をお(於)へりむか(可)ふとな(那)に(尔)い
そ／ぐらむ

かな条幅規定【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

松村くに子選書

習い方解説(二)

松村くに子

わが屋戸のいさゝ群竹吹く風の
音のかそけきこの夕かも

(大伴家持「万葉集」)



2行目は渴筆部分が長いです。
美しい表現にするために苦慮しま
す。用紙によっては、流れすぎて
しまうことがあります。この場合
紙の裏面を使用して書いてみるの
も一考かと思います。

よみ方 わ(王)が(可)屋(や)戸(戸)の(乃)いさ(佐)さ(ハ)群(无ら)竹吹く(久)風の
音の(能)か(可)そ(處)け(希)きこの(能)夕かも(毛)

*タテ形式に限る

創作

漢字条幅規定 初段以上【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小竹石雲選書

習い方解説 (五)

小竹石雲



静夜草庵裏 獨奏沒絃琴

調入風雲絶 聲和流水深

(良寛)

(静夜草庵の裏／独り奏す没絃琴／調は風雲に入りて絶え／声は流水に和して深し)

書体＝自由



書体＝自由

漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小林琴水選書

習い方解説 (五)

小林琴水

筆先をきかせて、軽やかなりび
ムで書きすすめて下さい。連綿線
は、あまり使いませんでした。单
体になつても、気分はつながるよ
うに書いて下さい。

字数を多くしてみました。12月
号の作考例よりも連綿を多くして
みました。連綿させることで作品
の流れが美しくなくてはなりません
。川の流れのように激しい上流の
流れ、海に注ぎこむつたりとし
た流れを思い浮かべてください。
連綿線の方向、長さで次にくる字
形の変化を考え千変万化する心の
動きを味わってみてください。

*タテ形式に限る

新年旦醉一杯酒 勝地同消半日間
(新年は旦らく酔う一杯の酒勝地同に消す半日の間)
(郭天錫)

広瀬舟雲

自分の前に敵が
いっぱいあらわれた時は、
振り返って見よ。

味方がいっぱいいたのだ。
生田長江のことば 舟雲書

生田長江は、鳥取県出身の評論家・翻訳家・小説家です。ニーチェやトルストイなどに注目しその書物の翻訳を手掛けて我が国に知の世界を広げた人です。ペンネーム「長江」は上田敏から頂いたとのこと。

しかし、その偉業はあまり知られていません。ハンセン病にかかり、生きる苦労を背負わされたからだといいます。苦しい時は前ばかり見ずに周りを見まわせ、すると、きっと理解者がいると人々に諭しています。

細書き用のボールペンで書いてみました。

自分の前に敵が
いっぱいあらわれた時は、
振り返って見よ。
味方がいっぱいいるものだ。
生田長江のことば

□注意!!

用紙の大きさにばらつきが見られます。
用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

書体=自由

△用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
△黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

余寒 鶯梅 岡山県 鳥取県

余寒 鶯梅 岡山県 鳥取県

日脚も延び、少しずつ春めいてきました

日脚も延び、少しずつ春めいてきました

岩垣若翠

(楷書) 余寒 鶯梅 岡山県 鳥取県
(楷書) 日脚も延び、少しずつ春めいてきました

(行書) 余寒 鶯梅 岡山県 鳥取県
(行書) 日脚も延び、少しずつ春めいてきました

基本用語

「余寒」立春がすぎてもまだ残る寒さ。
「鶯梅」(おうばい) 梅に鶯、画題として春の景色を意味する言葉。

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)
◇用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

ホープ作品

各部総評

No. 740

ペン字部 師範 石田 詩峯

躍动感ある力強い線で全体をバランス良くまとめています。終始一貫丁寧な書きぶりの作品です。

◎ペン字部総評 差出人は出品者ご本人の氏名または氏号を書いて下さいとありましたが、名または号のみの方散見。ご注意を。(葉扇評)



前衛書部 特選 御園生芳瑠

紙面の左と右部分が巧みに呼応し合い、軽妙洒脱の作となつた。周りの細い線の効果大。

◎前衛書部総評 墨色の変化の妙をみせる作が多くみられ、また構成の巧みな作が多かった。(姫龍評)



現代詩文書部 特選 澤 嘉代美

美しい淡墨による大小の文字が絶妙に調和して紙面に溶け込み、自然で清々しい作品となつた。

◎現代詩文書部総評 文字造形や章法等不自然さを感じる作目立つ。字書の活用怠りなく! (巨峰評)



かな条幅部 師範 斎藤 杏邑

過不足なく、優しく心に添つてくる雰囲気が得がたい。書だけではなく総合的美意識抜群の方です。

◎かな条幅部総評 漢字・南と寒に曖昧な字が多く残念。墨量过多でかな作品の美しさを損なっている作散見。墨美の研究を! (明子評)



漢字条幅部 師範 宍戸 谷秀
余白に囁きかける爽快な線の響きが生き生きとし、生彩感を醸し出しており格調高い作に仕上がる。

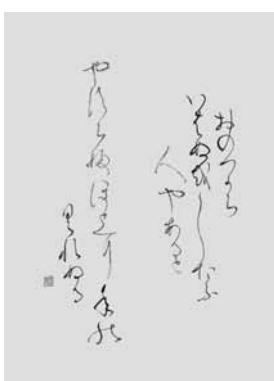
◎漢字条幅部総評 半折の形態での表現はある意味マンネリ化するが、その中での工夫と線の練度がものを言う。多書が必要。(石雲評)



漢字部 師範 加瀬明日夏

細部に至るまで、細やかな心配りがされた行書。柔軟で淑やかで上品。真摯な鍛錬の成果が窺える。

◎漢字部総評 上級は隸書作品に巧拙の差が見られた。着実な学書による隸書の基本的書法に裏付けられた創作が望ましい。(萬城評)



かな部 師範 宇田川春華
リズムのしなやかさが心地よい。墨継ぎの位置・墨量も的確で、全体の景色の掌握が素晴らしい。より運筆の緩急や筆圧の加減が変わるので注意が必要。(洋子評)
◎かな部総評 概ね参考手本に則り好作品が多かった。料紙の質により運筆の緩急や筆圧の加減が変わるので注意が必要。(洋子評)

実用書優秀作品

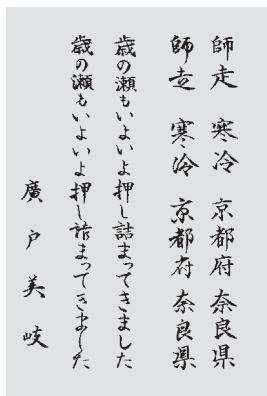
選評 三浦 鄭街

◎実用書部総評

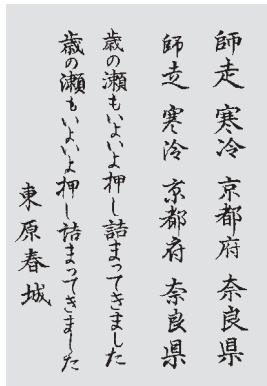
一点一画心込めて丁寧に書かれた作品が多く、半紙 $\frac{1}{2}$ の小さな世界であるが、全体の布置を意識して仕上げる事が大切である。

(鄭街評)

漢字とかながよく調和し、丁寧に書かれている。整った美しい線、穩やかで温かみを感じさせる。



構え大きく伸びやかな書きぶりがすばらしい。気脈も最後まで一貫し堂々の作。



千土佑祥	誠深紅葉	氣朋華和大瑠	A や深千水玉川	こ江龍	江	千葉	春城	紅葉	特選
佳作			I ま大潟茎川	ここ		龜松	廣戸		
竹杉水喜	鶴澤相澤	田多志	高清水佐藤	加井ノ口	石井	大雲	東原		
浪田津多	志	胡木	佐藤	荒谷	口	安藤	池田		
叙祥惠	津琴光敦子	幸哲子	三千代	竹寿蘭舟	春峰	鷺山	美梢	直子	
舟風	舟子	泉	幸子	蘭舟	奈	豊田	叙孝	春城	
董文	深こ華	玉旭	書	大四枝	秀苑	昌宗	小桜草	耕天満	
雪筆	大だ仙	川老游	亀松	東總	心和	翠苑	翠草	八街	
小熊久北	下爪	神田加瀬	薄田	伊藤井出	青木	吉茂	三松本	松外山	
池谷	北爪	寺地	奥川	森崎	木	吉田	浦	田畠	
稔紫香	美恵奈	子	麗春照子	博子	龍華	翠絢	小佳	明惠	
子蘭	和水	晴美	楓綠	雨	藤漣	綾水	圓樹	蕙	
(選外)	蘭	希	瑛碧	甘	裕	裕	佳	琴	
名氏略	香峰	和春	佳永奈	星絹	佐	希	裕	星絹	
	舟苑	希	琴翠秋	亞	子	希	子	佐	
	生江	秋子	象芳	裕	希	子	子	属	
			花澤	子	華				

前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)



琵蒼紫詠秀

琶風炎子

四浩黃雅麗

草美扇悠芳

翠國紅汀麻衣子

惠泉霞子

由祥琴

佳風理

李沙睦光

京莉霞

美雄溪惠

翠一泉

選評 大平邑峰

構成の巧みさで重厚感有
墨色美しくリズム感溢れる
にじみの中の躍動感良い
濃墨とかすれの対峙成功
重厚な中の抜け感、巧み
力強さの中に軽妙さあり
星空を見るような美しさ

言葉を目立たせる線表現
零れ落ちそうな小字魅力
絶妙な文字の配置と変化
字間と余白の研究作
街いのない書きぶり魅力

線質深く、流れも良い
碎けた雰囲気一貫す
思い切りのよい筆使い
筆の性能楽しみながらの作
段々と気持ち盛り上がる
大小の文字よく調和す

筆が躍動し、強弱も絶
メリハリ有る柔軟な筆致
少ない白、濃淡で和らぐ
線強く、筆法やや観念的
大胆な筆の開閉成功

選評 岡田琇韻

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 小竹石雲 後藤大峰 石井明子 山口仙草

臨書 (澄春会)
浪川秋花
「乙瑛碑」



◆伸びやかな運筆、特に波磔の筆法がよく、しっかりと書いてある。さらに隸書本来の形態を見るべきものあり。（大峰評）

浪川秋花臨

136×35cm

前衛書 (惠月)
重村 恵月
「和」



◆表現力豊かで造形が美しい。軽妙なリズムで緊張感ある書線の現代感覚溢れる作品となつた。(仙草評)

136×35cm

現代詩文書 (京橋)
田中一葉
「利玄のうた」



◆余裕のある筆致でたんたんと書きあげた筆者の心情が利玄の世界に投影された実に心落ちつく作。（石雲評）

136×35cm

小品の部

臨書 (清月) 境野和子 「針切」

部分拡大

◆思いの行き届いた
作品である。芸術性
の追及であろうか。
印まで配慮を望みます。
細い朱文で小さな
めは？

境野和子 暫

36×136cm

玄象	八街
大鹿	三浦
洋江	英樹
吉瀬	高峰
彩雨	高真
岩上	小映
郁子	華祥
勝	豊鳴
青鳳	板垣
雅芳	加藤
伊呂	かな
鈴木	英晴

大拙 佐藤 陽子
蓮紅 大友 紅葵
月華 浅野日向子
(臨書の部)
「漢字」

創作の部	(43点)
漢字	— 5点
かな	— 1点
現代	— 23点
篆刻	— 0点
前衛	— 14点
臨書の部	(37点)
漢字	— 30点
かな	— 7点

大作の部

部分拡大



平野笛舟臨

60×180cm

漢字 (もくせい会)

西川藤象
「七言二句」

現代詩文書 (蒼風)

笹木蒼風
「言水句」

◆書くことを愛する人の書である。立派であるが作業にならないことを願う。印が過大で均衡を欠く。一考を。(明子評)



廣田紫書

前衛書
(紅瑠)

廣田紫「成」

153×72cm

◆長峰による強靭な書線で筆の開閉をダイナミックに表現し、潤渴の変化も冴えスケールの大きくな作となつた。(仙草評)



西川藤象書

175×45cm

◆文字の大小の変化の他、筆圧のかけ方による書線の太細の妙が作品全体を引き締めている。(大峰評)

笹木蒼風書

180×62cm

◆意念力のしっかりした句意を正面から捉え大胆な伸びやかな筆線で表現された痛快な作である。(石雲評)

創作の部(40点)	
漢字 - 6点	かな - 9点
現代 - 10点	前衛 - 15点
漢字 - 8点	かな - 2点
前衛の部(10点)	漢字の部(10点)

総出品点数
50点

創作の部(40点)	
漢字 - 6点	かな - 9点
現代 - 10点	前衛 - 15点
漢字 - 8点	かな - 2点
前衛の部(10点)	漢字の部(10点)

〈大作の部〉

漢字研究部
(乙瑛碑)

選評名 越 蒼 竹

今月のホープ作品



加瀬 明日夏

漢字研究部 特選 加瀬 明日夏
やや線が細いものの、隸書の結体・用筆ともに完璧に近い出来栄えであり、半紙に6文字を上手くまとめている。古典に誠実に向き合った姿勢が感じられ、好感が持てる。今後の更なる飛躍を期待したい作品である。

◎漢字研究部総評

乙瑛碑は漢代後期の碑でありながらかなり鮮明な拓本が残されています。とは言え石の

傷が無いわけではなく、白く見える部分が必要な点画なのか、黒く見える部分に必要な点画が隠れているのか、判然としないことがあります。こういう時は字典で他の作品に書かれた例を参考にするしかありません。出品作の多くにその作業を怠ったと思われる誤字が多く見られ、また4字臨書作では字形が続に伸びた例が多く見られ残念でした。



節淳藤竹紅惠
子瓊鳳雨芳

四惠沙英美
理衣津澤
草子子樹子

裕嘉良ふ敦清
子美章で子耀

玲美翠紫賢良
子梢玉千幸子

かな研究部
(針切)

選評 大辻 多希子

今月のホープ作品



千麗春
鶴
子子華

幸香佳
泉舟恵

寿嘉
美朗
子江

美杏幹
梢邑生

永井伯泉

◎かな研究部総評
判読しにくい、渴筆箇所が多かったためか、誤字が目立ちました。古筆鑑賞ページの歌とよみをよく読んで理解してから臨書して下さい。

かな研究部 特選 永井伯泉
多字数の渴筆による連綿の箇所も、運筆の筆圧の変化で表現されています。伸びやかな線は凜として、細部まで行き届き、雅趣があります。

樹華森清京松玉 原祥地月橋土松秀		上高有竹たも光高竜清菊大秀高邊 <small>A</small> 紅桜紅上清大潮う書 泉井秋美かく彩崎泉月雲霞崎春 <small>I</small> 瑠草風泉月雲音る書界		柏彌刑八梅戸浅矢高境新磯大二字埋須苗田早小驚齋飯永 谷田部木津浦川口橋野井貝野通田江田代烟部林山藤高井		和和裕紀代藤華な登雅和恵清鶴麗春幸香佳美嘉美杏幹伯泉 子子美舟子風江泉子子耀子子華泉舟恵子子胡江梢邑生泉	
葛板村飯東青青 垣田島木木作		柏彌刑八梅戸浅矢高境新磯大二字埋須苗田早小驚齋飯永 谷田部木津浦川口橋野井貝野通田江田代烟部林山藤高井		柏彌刑八梅戸浅矢高境新磯大二字埋須苗田早小驚齋飯永 谷田部木津浦川口橋野井貝野通田江田代烟部林山藤高井		和和裕紀代藤華な登雅和恵清鶴麗春幸香佳美嘉美杏幹伯泉 子子美舟子風江泉子子耀子子華泉舟恵子子胡江梢邑生泉	
紅佳 白桃		こ無蘭八大石幕千高上紅橋澄長上青上わ春た立や玉白土書た竹高秀華大こ だ門 街雲習張葉崎泉風雅春月泉蓮泉か汀か精雅川露氣泉か美崎秋仙雲こ		吉山矢村三松松松本船藤深原根沼中都渡樋千田関春杉七猿櫻小木菊河加 野中部上浦丸島重浦多津原澤澤岸田村丸子田玉根原田五渡田峰下地合藤 美千		吉山矢村三松松松本船藤深原根沼中都渡樋千田関春杉七猿櫻小木菊河加 野中部上浦丸島重浦多津原澤澤岸田村丸子田玉根原田五渡田峰下地合藤 美千	
澄仙文 春台筆入		菊高竹青玉椿桜あ一生蓮た東は上高天 <small>A</small> 上玉有澄竹麗菊高芳遊大一正上琇蕙 <small>I</small> 正棟こ澄た橋和わ蘭 月井美蓮川翠草か弦大紅か向せ泉崎璋 <small>I</small> 泉松秋春扇澤月崎仙汀書崎蘭山雲弦華泉韻書		吉吉横山谷安守本村宮本浜島長萩根中寺塚田武高瀬須庄清篠佐坂酒斎黒工木叶加岡岡 原田山崎知鳴友吉上下田野山谷原本里原本中山橋尾藤子水嫁々本井藤野柳藤原野納村田 木		吉吉横山谷安守本村宮本浜島長萩根中寺塚田武高瀬須庄清篠佐坂酒斎黒工木叶加岡岡 原田山崎知鳴友吉上下田野山谷原本里原本中山橋尾藤子水嫁々本井藤野柳藤原野納村田 木	
阿阿熱青 部天海木坊 冬桃知 華草翠子		阿阿熱青 部天海木坊 冬桃知 華草翠子		阿阿熱青 部天海木坊 冬桃知 華草翠子		阿阿熱青 部天海木坊 冬桃知 華草翠子	
有竹 扇		有竹 祥富映澄明蘭正八声玉蒼硯春光素う梓こ大大竜上附こ菊東春上華森上白明矯玄正蘭梅椿土誠澄わ澄八日堺正あ青も 秋扇		吉吉横山谷安守本村宮本浜島長萩根中寺塚田武高瀬須庄清篠佐坂酒斎黒工木叶加岡岡 原田山崎知鳴友吉上下田野山谷原本里原本中山橋尾藤子水嫁々本井藤野柳藤原野納村田 木		吉吉横山谷安守本村宮本浜島長萩根中寺塚田武高瀬須庄清篠佐坂酒斎黒工木叶加岡岡 原田山崎知鳴友吉上下田野山谷原本里原本中山橋尾藤子水嫁々本井藤野柳藤原野納村田 木	
高高鈴 杉菅新島 柴篠三佐 筆佐		高高鈴 杉菅新島 柴篠三佐 筆佐		高高鈴 杉菅新島 柴篠三佐 筆佐		高高鈴 杉菅新島 柴篠三佐 筆佐	
遷惠 こ明昌東 華幸華松 こ春中墨 白黎千高 澄生華薺 掃有澄長 椿縷矯正 土白白遊 洞桂一 誓天小堺 清掃泉玄 生惠千墨華 高天沙玉 外泉大漢苑 伯仙扇仙村 大汀川宣 露明葉真 春大仙湖 雪秋春月 翠縷韻華 氣露珠雲 書泉草田 映瑞美貴 洋美裕綾 蒼雅和龍 芳裕雪惠 萩玄豊梨 琴美一静幸 美雅桃麻智 和礼紅か真 一昌綾琴楠 正祥翠嘉悦 津玲朱藤 子秋心子子 紅華子子子 奈風芳子貞 博峰華字江 城美奈翠和 葉代子結芳 代央美子子震 り理美子乃舟 麗惠園徑子子 音雪		遷惠 こ明昌東 華幸華松 こ春中墨 白黎千高 澄生華薺 掃有澄長 椿縷矯正 土白白遊 洞桂一 誓天小堺 清掃泉玄 生惠千墨華 高天沙玉 外泉大漢苑 伯仙扇仙村 大汀川宣 露明葉真 春大仙湖 雪秋春月 翠縷韻華 氣露珠雲 書泉草田 映瑞美貴 洋美裕綾 蒼雅和龍 芳裕雪惠 萩玄豊梨 琴美一静幸 美雅桃麻智 和礼紅か真 一昌綾琴楠 正祥翠嘉悦 津玲朱藤 子秋心子子 紅華子子子 奈風芳子貞 博峰華字江 城美奈翠和 葉代子結芳 代央美子子震 り理美子乃舟 麗惠園徑子子 音雪		遷惠 こ明昌東 華幸華松 こ春中墨 白黎千高 澄生華薺 掃有澄長 椿縷矯正 土白白遊 洞桂一 誓天小堺 清掃泉玄 生惠千墨華 高天沙玉 外泉大漢苑 伯仙扇仙村 大汀川宣 露明葉真 春大仙湖 雪秋春月 翠縷韻華 氣露珠雲 書泉草田 映瑞美貴 洋美裕綾 蒼雅和龍 芳裕雪惠 萩玄豊梨 琴美一静幸 美雅桃麻智 和礼紅か真 一昌綾琴楠 正祥翠嘉悦 津玲朱藤 子秋心子子 紅華子子子 奈風芳子貞 博峰華字江 城美奈翠和 葉代子結芳 代央美子子震 り理美子乃舟 麗惠園徑子子 音雪		遷惠 こ明昌東 華幸華松 こ春中墨 白黎千高 澄生華薺 掃有澄長 椿縷矯正 土白白遊 洞桂一 誓天小堺 清掃泉玄 生惠千墨華 高天沙玉 外泉大漢苑 伯仙扇仙村 大汀川宣 露明葉真 春大仙湖 雪秋春月 翠縷韻華 氣露珠雲 書泉草田 映瑞美貴 洋美裕綾 蒼雅和龍 芳裕雪惠 萩玄豊梨 琴美一静幸 美雅桃麻智 和礼紅か真 一昌綾琴楠 正祥翠嘉悦 津玲朱藤 子秋心子子 紅華子子子 奈風芳子貞 博峰華字江 城美奈翠和 葉代子結芳 代央美子子震 り理美子乃舟 麗惠園徑子子 音雪	
78渡吉吉山 山柳茂宮 三真松松 増牧前本 福深平 原林林野 西長中中 中中中中 中利德津 辻千田田 武竹武田 瀧高高 名邊野千 田本本本 瀧木本 庭田村田 鳴尾田野 川田富田 堀山山 村口山井 村村野里 島守江田 葉村村沢 田井井口 口口口口 香す 名信彩 鶴翠真美 梅琇翠佳 佳ケ陽綾 節希華清 瑛彩牧流 清だつ 恵余美奈 美莫久寛 笙一美亮 佳淳李洋 陽春恵宗 香一代み 貞代样子 綾紀楓香 華芳子枝 舟ミ子香 子秀次仙 桂子源洗 子子子タ 子龍仙子泉 琴子子勝 理子花子 子華石子 楓華江子子 音雪		78渡吉吉山 山柳茂宮 三真松松 増牧前本 福深平 原林林野 西長中中 中中中中 中利德津 辻千田田 武竹武田 瀧高高 名邊野千 田本本本 瀧木本 庭田村田 鳴尾田野 川田富田 堀山山 村口山井 村村野里 島守江田 葉村村沢 田井井口 口口口口 香す 名信彩 鶴翠真美 梅琇翠佳 佳ケ陽綾 節希華清 瑛彩牧流 清だつ 恵余美奈 美莫久寛 笙一美亮 佳淳李洋 陽春恵宗 香一代み 貞代样子 綾紀楓香 華芳子枝 舟ミ子香 子秀次仙 桂子源洗 子子子タ 子龍仙子泉 琴子子勝 理子花子 子華石子 楓華江子子 音雪		78渡吉吉山 山柳茂宮 三真松松 増牧前本 福深平 原林林野 西長中中 中中中中 中利德津 辻千田田 武竹武田 瀧高高 名邊野千 田本本本 瀧木本 庭田村田 鳴尾田野 川田富田 堀山山 村口山井 村村野里 島守江田 葉村村沢 田井井口 口口口口 香す 名信彩 鶴翠真美 梅琇翠佳 佳ケ陽綾 節希華清 瑛彩牧流 清だつ 恵余美奈 美莫久寛 笙一美亮 佳淳李洋 陽春恵宗 香一代み 貞代样子 綾紀楓香 華芳子枝 舟ミ子香 子秀次仙 桂子源洗 子子子タ 子龍仙子泉 琴子子勝 理子花子 子華石子 楓華江子子 音雪		78渡吉吉山 山柳茂宮 三真松松 増牧前本 福深平 原林林野 西長中中 中中中中 中利德津 辻千田田 武竹武田 瀧高高 名邊野千 田本本本 瀧木本 庭田村田 鳴尾田野 川田富田 堀山山 村口山井 村村野里 島守江田 葉村村沢 田井井口 口口口口 香す 名信彩 鶴翠真美 梅琇翠佳 佳ケ陽綾 節希華清 瑛彩牧流 清だつ 恵余美奈 美莫久寛 笙一美亮 佳淳李洋 陽春恵宗 香一代み 貞代样子 綾紀楓香 華芳子枝 舟ミ子香 子秀次仙 桂子源洗 子子子タ 子龍仙子泉 琴子子勝 理子花子 子華石子 楓華江子子 音雪	

正棟こ澄た橋和わ蘭
華高だ春か雅平か
こ

由は久美虹紅簾玉英幸佳
田サ嵐子

由由は久美虹紅簾玉英幸佳
田サ嵐子

〔特別昇段級試験臨書課題〕

※下記の写真掲載部分の中から規定の文字数を
臨書する。掲載以外は違反となります。

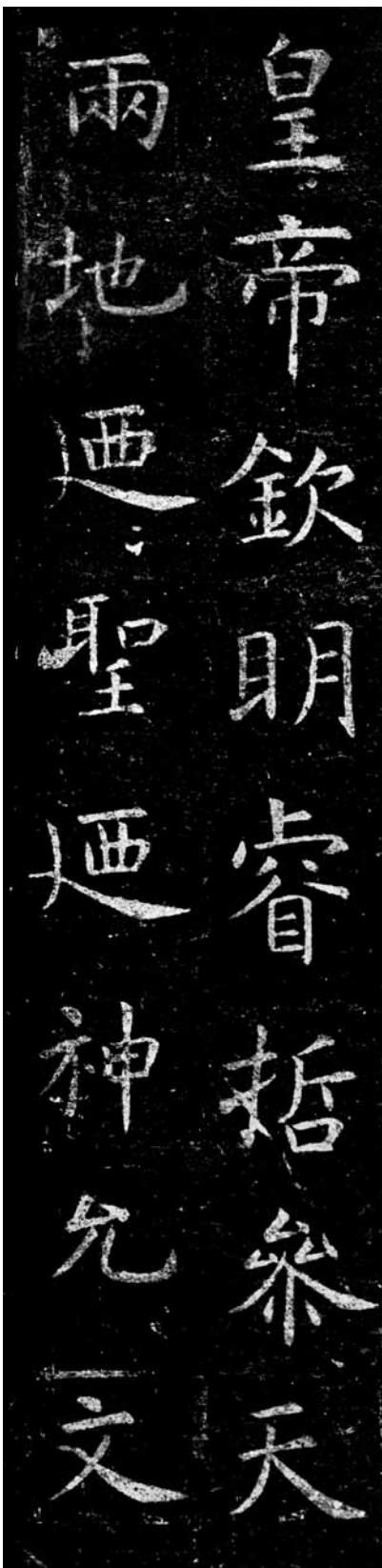


蘇慈墓誌銘（楷書）

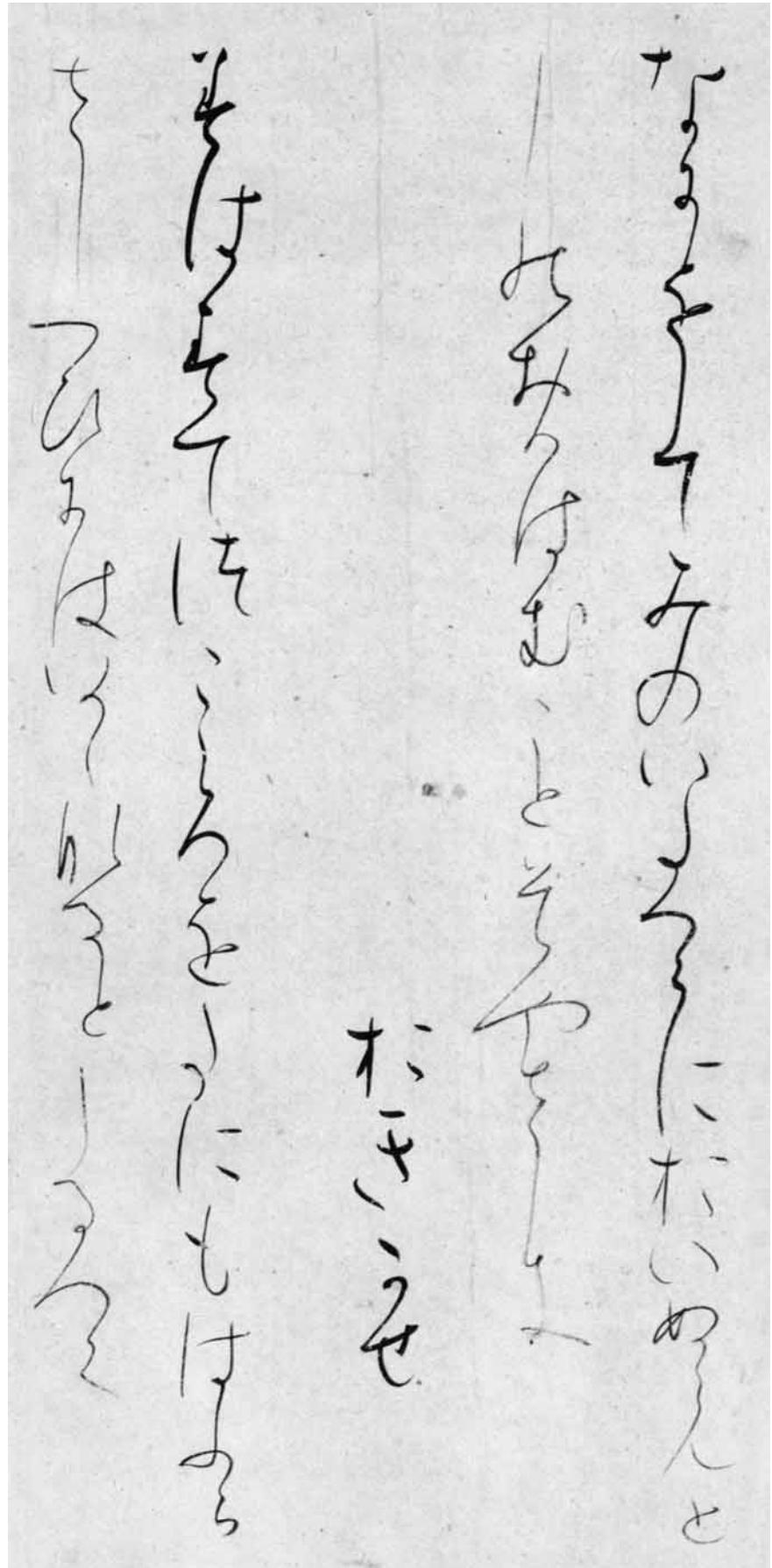
漢字部

第二種 半紙に写真掲載の中から4文字を臨書

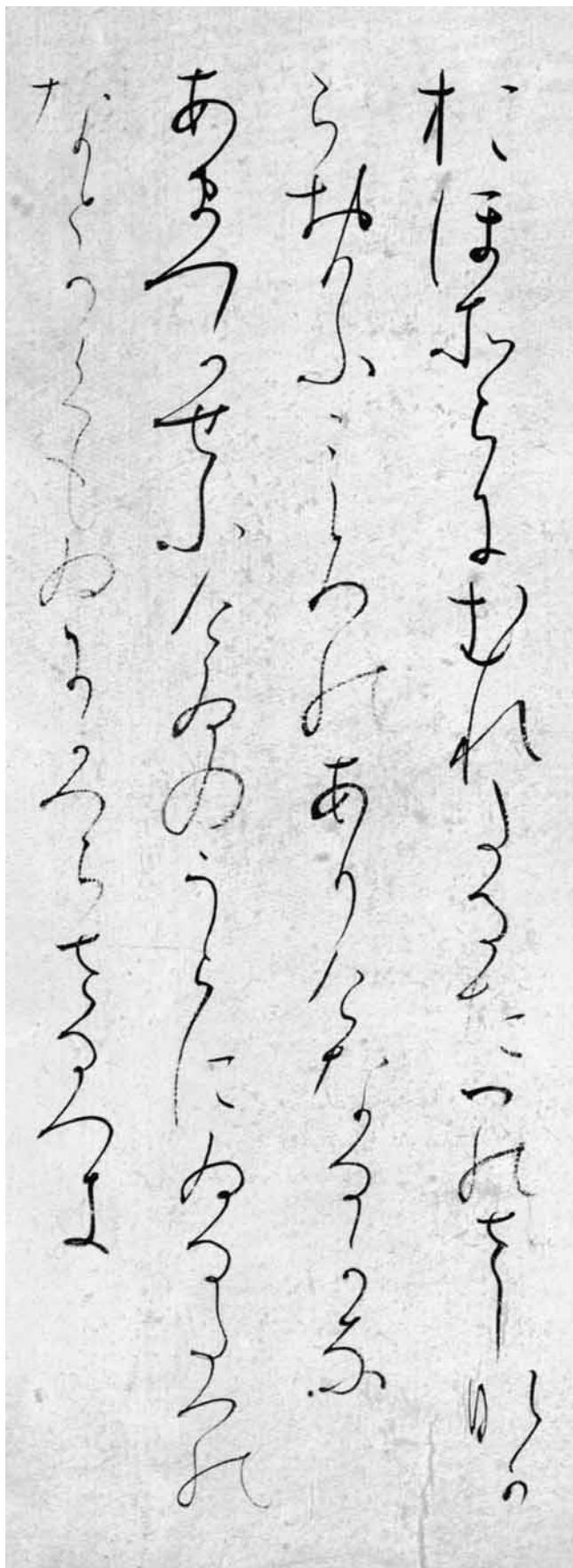
皇帝欽明睿哲參天／兩地廼聖廼神允文



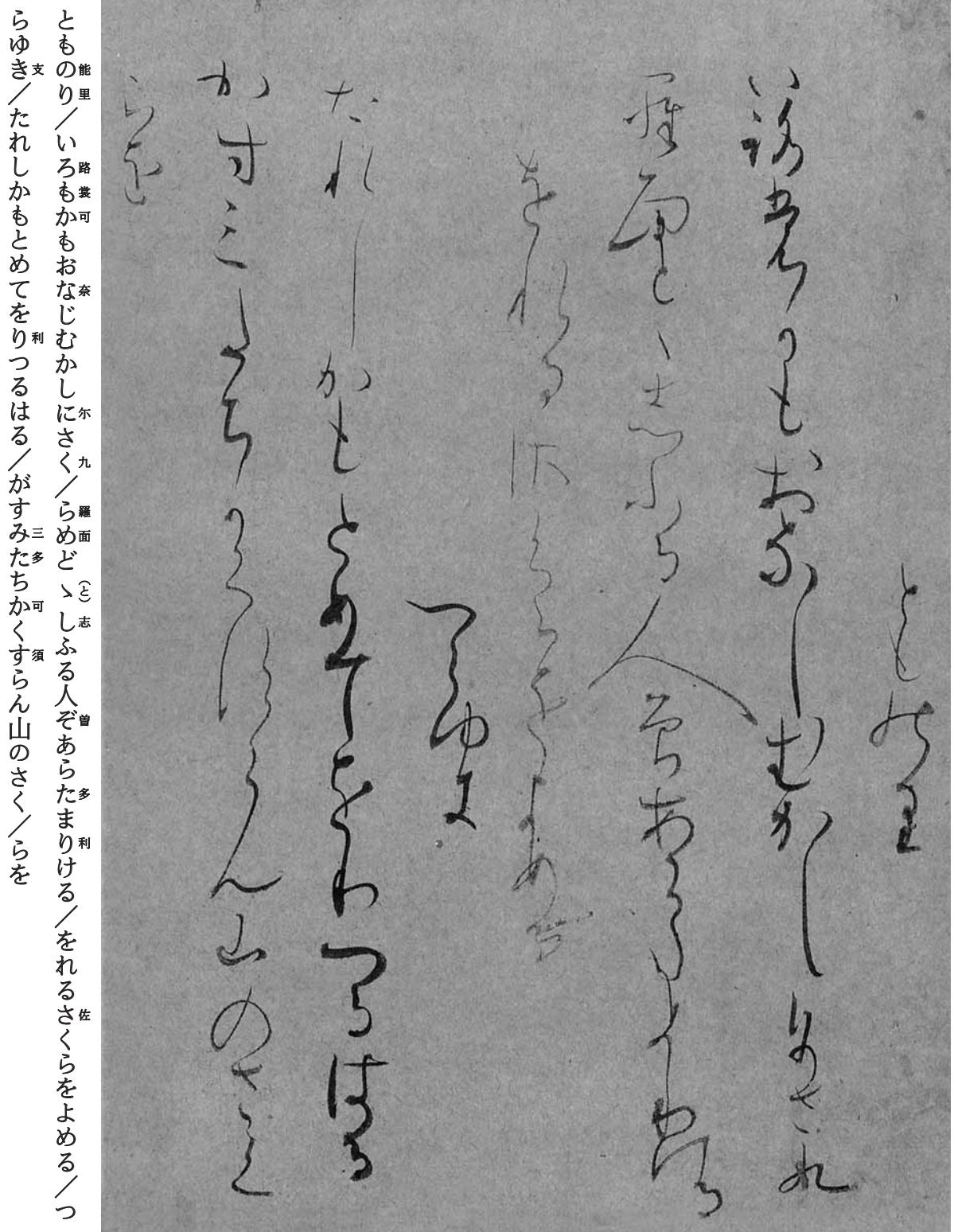
なにをしてみのいたづらにおいぬらんとしのおもはむことぞやさしきおきかぜ
 みはすてつこゝろをだにもはふらさじつひにはいかゞなるとしるべく
 美春
 徒
 可那
 可



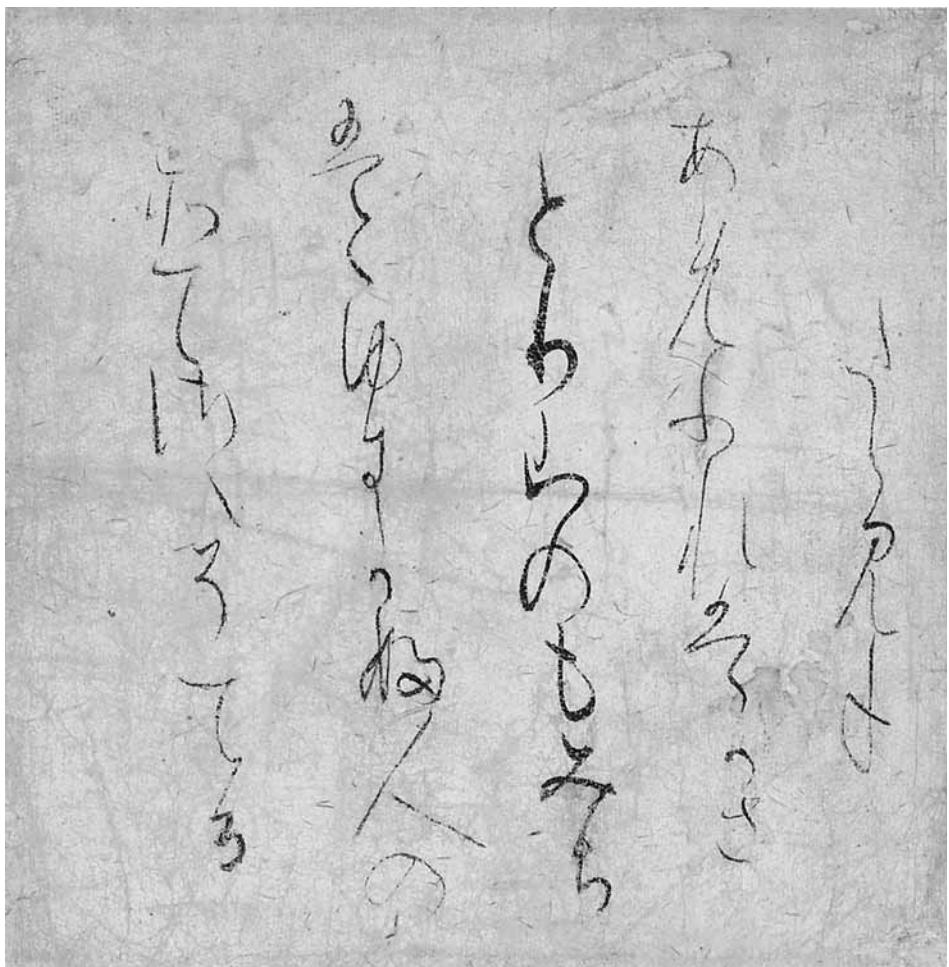
おほぞらにむれたるたづのさしなが
あまつかぜふけるのうらにあるたづの
おほぞらにむれたるたづのさしなが
あまつかぜふけるのうらにあるたづの



<原寸大>



△原寸大△



- ・料紙可
- ・たて12.8センチ×よこ12.7センチ原寸大
- ・枠を半紙にとり、その中に書くこと。
- ・落款は枠外に書く。(枠外に押印)
- ・印のみも可(枠外に押印)
- ・料紙を裁断して貼付してもよい。

たゞみね

あめふればかさ

とり山のもみぢ

ば
支
婦

ゆきかふ人の

所
佐
曾

そでさへぞてる

ご注意!!

名前のかき方

- どの部も落款を入れる。
- ・創作は○○書と書く。
- ・(かな部・かな条幅部は印のみも可)
- ・(かな部・かな条幅部は印のみも可)
- ・(かな部・かな条幅部は印のみも可)



銀青光祿大夫行太／子左庶子上柱國黎／陽縣開國公于志寧

當人臣極也豈不以才為世出功冠
一時挫思明跋扈之師抗迴紇無生
狀清故身畫凌煙之閣名

當人臣之極地。豈不以才爲世出。功冠一時。挫思明跋扈之師。抗迴紇無
猷之請。故得身畫凌煙之閣。名

被拂之承志重矣海雲哉
狂如蟬翼落之若泉注都
引山也哉、半以初月之生
至若兰陵、宋臯、衣星之互
博同、固北之妙、又此力至之

據槁之形。或重若崩雲。或輕如蟬翼。凜之則泉注。頓之則山安。纖々乎似初
月之出／天崖。落々乎猶衆星之列河／漢。同自然之妙有。非力運之

[2023春季特別昇段級試験参考手本]

和神養素（神を和げ素を養う）

（王右軍）



漢字部

第二種 ◇創作・行書

◇春の特別昇段級試験の課題手本（創作作品）を掲載しました。参考にして下さい。

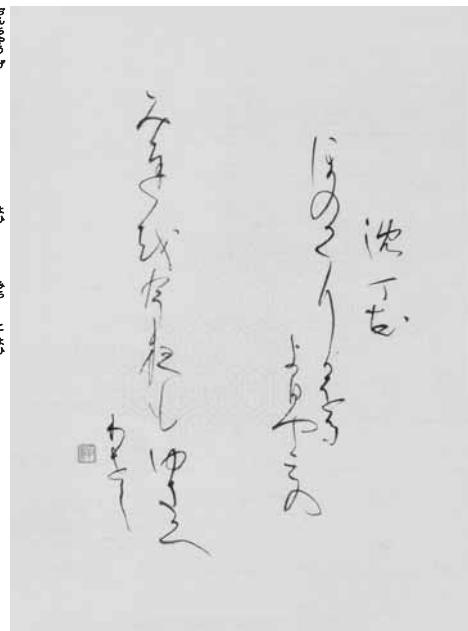
（編集部）

第三種 ◇創作

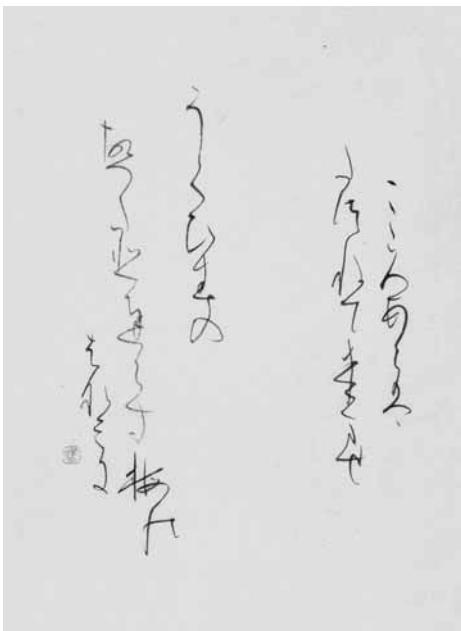
第二種 ◇創作

かな部

沈丁花ほのかにかをる宵やみの道を今夜もゆきかへりせし（佐佐木信綱）
よみ方 沈丁花ほのか(可)に(可)か(可)をる宵(よ)やみ(ニ)の道(み運)を(越)今夜もゆき(支)か(可)へり(利)せ(世)し

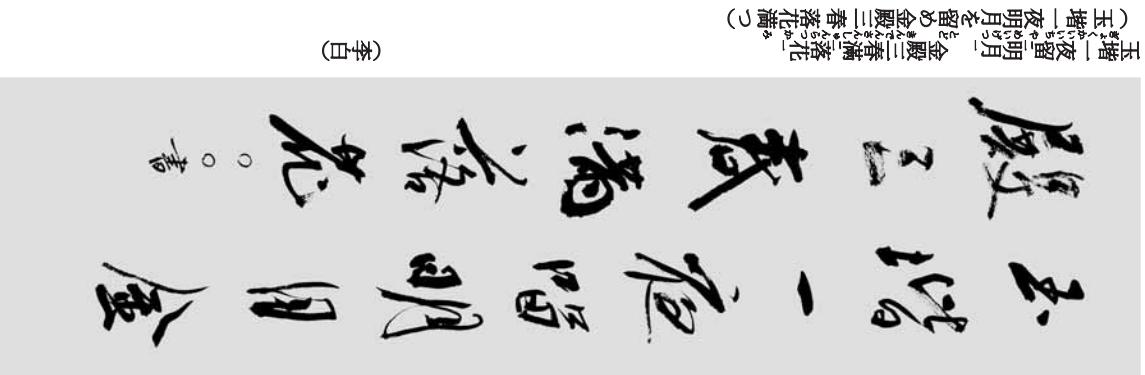


こころあらばたづねて来ませ鶯のこづたひちらす梅の花見に（良寛）
よみ方 ここ(へ)ろあらば(鶯)た(多)づ(送)ねて来ま(古)せ鶯(う久ひ春)の
こ(故)づた(多)ひ(悲)ち(遷)らす梅の(能)花(者)那(見)(二)に(尔)





第三種 ◇創作・楷書



第二種 ◇創作・行書

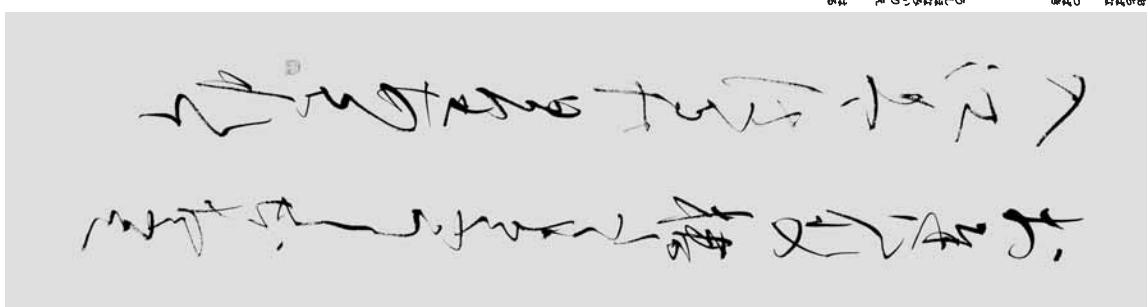


第一種 ◇創作(楷書または行書)

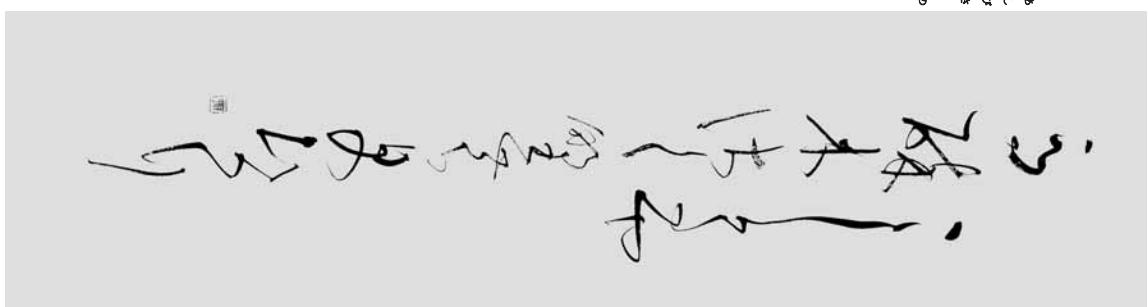
漢字条幅部

<行書>

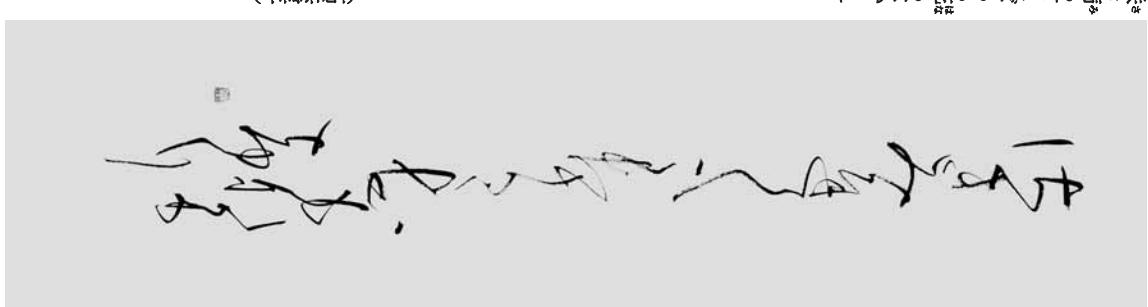
<楷書>



第一種 ◇ 創作(短歌)



第一種 ◇ 創作 (句)
第二種



第一種倉作(例)

か な 条 幅 部

第一種 楷書 (1枚)
 第二種 楷書・行書 (計2枚)

孔子廟堂碑は、伸びやかで
 気品に満ちた楷書の規範とさ
 れる。唐の太宗が長安に孔子廟
 を再建したことを記した記念
 碑である。

○○書

孔子廟堂碑は、伸びやかで
 気品に満ちた楷書の規範とさ
 れる。唐の太宗が長安に孔子廟
 を再建したことを記した記念
 碑である。

○○書

孔子廟堂碑は、伸びやかで
 気品に満ちた楷書の規範とさ
 れる。唐の太宗が長安に孔子廟
 を再建したことを記した記念
 碑である。

○○書

*臨書作品は、43~50ページの写真掲載の古典・古筆の中から、指定文字数
 を臨書して下さい。

*作品締め切りは4月15日(土)です。

(編集部)

書道芸術 春季特別昇段級試験受験希望の方へ

1. 「書道芸術」を購読されている個人、及び1ヶ月5部以下の団体（指導者の代表者申請も可）で昇段級試験受験希望の方は必ず期日までに葉書にて申し込みをしてください。（電話では受け付けておりません）
2. 団体で「書道芸術」を購読されていても、昇段級試験は個人で申請を希望する方も必ず期日までに葉書にて申し込みをしてください。

郵便はがき	
63円 切手	101-0031
東京都千代田区〇〇〇-1-1 鈴木 一郎	東京都千代田区東神田1-16-7 東神田プラザビル3階 書道芸術編集部特別昇段級試験 申込
書道芸術特別昇段級試験に申し込みます。 △葉書記入例▽	

* 5部以下の団体で申請する際は、
①の住所と②の名前は書類を受
けとる代表者の方のみの記載で
結構です。

*申し込み締切

△3月20日(月)▽

特別昇段級試験

第二種(計2枚)

楷臨書 蘇慈墓誌銘(蘇慈墓誌銘)

行創作 和神養素(神を和げ素を養う)

(王右軍)

和神養素(神を和げ素を養う)

うこと。素はまこと。まことを養うこと。

うこと。素はまこと。まことを養うこと。

一、しめきり日 4月15日(土)

春季作品募集は、左記の通りです。

漢字 一種、二種

漢字条幅 二種、三種

かな条幅 二種、三種

ペン字 二種、二種

漢字、かな条幅、ペン字の三種は、

秋季募集となります。

第二種(楷・行 計2枚)

楷臨書 皇帝誕碑(皇帝誕碑より)

行創作 金殿三春満落花(玉壇一夜留明月)

(玉壇一夜留明月)

(玉壇一夜留明月)

(玉壇一夜留明月)

(玉壇一夜留明月)

これは宮中の眺めである。

四、名前のかき方

◎どの部も落款を入れる。

創作は○○書と書く。(かな部・か

かな条幅部は印のみ可)

临書は○○臨と書く。(かな部・か

な条幅部は印のみ可)

五、受験料

第一種 一、五〇〇円

第二種 三、〇〇〇円

第三種 四、五〇〇円

◇昇段級試験用振替口座で納入。

成績に応じて、次の通り昇段級させる。

第一種は、最高秀級まで

第二種は、最高二段まで

第三種は、最高師範まで

出品票はバーコード出品券を使用

し、4月号(74号)の段級を記入

(昇試出品券を貼付欄に貼る)

一種は作品の右下に貼る。一種

三種は1番上のみ、作品の右下

に貼る。

作品2枚以上ある時は、右上を

ホチキスまたはのりでとめる。

団体支部の方へは事務所から応

募書類一式を送付する。

個人で受験希望の方は、はがき

で申し込む。

受験申込み締切は3月20日(月)

・申し込み先

〒101-0331 千代田区東神田1-16-7 東神田プラザビル三階

書道芸術編集部特別昇段級試験係

(受験番号を記入した個人専用

の応募書類を送付します。)

応募書類は4月1日以後に整理

発送。送付された応募書類に必

要事項記入の上、作品に添え応

募する。

漢字部 半紙=たて長に使用

第一種(1枚)

楷臨書 孔子廟堂碑(孔子廟堂碑)

より4文字を臨書)

めでたい瑞祥の風が室内に満つ。

漢字条幅部 小画仙紙半切=たて長に使用

第一種(1枚)

楷書または行書

(佳氣高堂)(葉裏)

○○書

孔子廟堂碑は、伸びやかで

気品に満ちた楷書の規範とさ

れる。唐の太宗が長安に孔子廟

を再建したこと記した記念

碑である。

楷臨書 孔子廟堂碑(孔子廟堂碑)

書道芸術編集部特別昇段級試験係

(受験番号を記入した個人専用

の応募書類を送付します。)

応募書類は4月1日以後に整理

発送。

送付された応募書類に必

要事項記入の上、作品に添え応

募する。

●篆刻

【三月十五日締め切り】

〈出品規定〉審査会員を含む誰でも出品可。

①摹刻

(ア)課題による語句
(イ)原印自由
(出典の際、原印のコピー添付)

②創作

語句自由

〈原印コピー〉



吳讓之

「長宜子孫」

2月号 篆刻課題

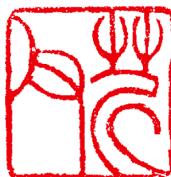
- 印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、摹刻とも応募は一人一点。

740号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

摹刻

<特選>



「芹父」

創作



「癸卯」

(摹刻)

秀作(50音順)	遊雲 中川 特選
林成高岡佐藤田小澤幸喜華仙	大雲芳琴大日水茎
淳喜秀汀希喜華仙	秀作(50音順)
生香丸大書畫小山	遊雲中川研治
入選(50音順)	佳作(50音順)
須賀澤一起進(選外なし)	大雲大網書泉
吉原皓洋妙子	片岡織田眞奈美
藤井龍義則	都丸山鷺山

(創作)

秀作(50音順)	石心 大沼 特選
藤井中畠龍義則	大沼樵峰
声游香入選(50音順)	遊雲佳作(50音順)
宮荒内成子空華(選外なし)	やま橋坂本赤逢清麗
	遊雲一橋坂本赤逢清麗
	やま橋坂本赤逢清麗
	遊雲一橋坂本赤逢清麗

◎篆刻部総評

今回も、摹刻、創作共にしっかりと作品を応募していただきました。特に繊細な部分がある摹刻作品がございました。

細部にわたり、よく原印を観察して申し分ない摹刻作品。

構成の巧みさと共に無理のない運刀が、この作品の良さである。

(大峰評)

送 料

1部～9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円
10部以上は	送料免除

コロナ禍の中、当分の間十六時～十六時に時間の変更しております。

※お問い合わせ、ご連絡は、月曜日～金曜日九時～十七時の間にお願いします。(土・日・祝日は休み)

101-0031

東京都千代田区
東神田一～一六一七
東神田プラザビル三階

FAX(03)3862-11954
電話(03)3862-11954
振替 00-150-4135058
<http://www.lincs.co.jp/shogei/>

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
公益財団法人書道芸術院

○出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款(氏号)を入れる。

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和五年二月二十五日印 刷 發 行
行

(毎月一回一日発行)

書道芸術

第七四二号

101-0031
発行所 公益財団法人書道芸術院
印 刷 小沢写真印刷株式会社
編集兼 下 谷 洋 子
データ処理 リンクス